

# 早雲だより

2023.4.23

第159号

歴史グループ早雲

代表 井上一夫

第一七五回 歴史ハイキング 報告

大山崎町のプチ探索と

講演会『明智光秀と大山崎』

2023年3月26日(日)

講演会 『明智光秀と大山崎』

講師 福島 克彦氏

(大山崎町歴史資料館館長)

を拝聴して

はじめて

例会当日は、菜種梅雨が明けきらない、肌寒い雨模様となりました。幸い午前中に「講演会」、午後から「大山崎町」の探索としておりましたので午後からの天候の回復を願いながら例会をスタートいたしました。参加者は雨にも関わらず27名の盛会となりました。

今回のハイキングは歴史グループ早雲スタッフの企画です。本日散策する大山崎町は、歴史と文化を誇るまちです。この地に人が住みだしたのはおよそ2万年前の旧石器時代。その後平安時代には山城の国の国府が置かれ、都への交通の要衝として物資や人々の

行き来が多くなり、たくさん公的施設や貴族の屋敷が立ち並び、平安京の西の玄関口として賑わいました。

「天下分け目の天王山」で有名な「天正・山崎合戦」は、秀吉と光秀が戦い秀吉の勝利となりました。

秀吉は当地に城を築き、千利休が茶室「待庵」を造りました。

江戸時代には八幡宮の神領として幕府から自治権を認められ、町場として賑わいを見ました。

歴史資料館館長さんのお話と近辺散策の一日です。

この日は、講演を拝聴して、いただいた資料をたどりながら、記憶に残ることを書きたいと思います。

明智光秀の実像は不明。

明智光秀が発給した文章は170点強残存し、織田権力を支えていた様相を示す。

NHKの大河ドラマ「麒麟がくる」では史料が使わずに描かれたようです。

織田権力が入洛した際は、織田氏の奉行人的な役割を果たす。目線を相手の立場に合わせる柔軟な姿勢を持つ。織田権力最末期は、織田権力の外交、近畿地方の支配、丹波経営などの実務を担当する。

本日の講演では戦国時代の自治都市が大山崎を守る

ため明智光秀と書状をやり取りした生々しい状況を知ることができました。

① 明智光秀の立ち位置

『離宮八幡宮文章』(永禄三年(1570))を見る。明智光秀・村井貞勝連署状で六月廿一日付、山崎惣宛。解説のみを上げます。(以下同じ)

大山崎が軍勢の移動で濫妨・狼藉があるとして、明智光秀・村井貞勝に苦情を述べる。その際、道路幅を広げること、「町道二円」の通行禁止を求めた。しかし、光秀・貞勝は、これを上申したが、後者は認められず、すでに、すでに寄宿免除の足利義昭の下知、信長の朱印状で対処済とする。



(写真)講演会

## ② 山崎合戦直前の禁制

明智光秀禁制『離宮八幡宮文章』(天正10年6月3日)

本能寺の変の翌日)

禁制として、軍勢・甲乙

人濫妨狼藉事。陣取り・放火之事。矢銭・兵糧米を相懸ける事。もし違犯したら、速やかに敵科に処すべし。

大山崎の住人が、変の翌日に明智光秀に会って禁制をもらってくる行動力に驚嘆した。居場所を探すだけでなく、複数の取次を通過

しなければならなかった。命の危険や取次への金銭の支払いなど負担は大きかった。

禁制をもらって解決とはいかず、濫妨・狼藉から守るのは自分たちとなる。地元に戻って、兵士たちの対応をしなければならぬ。その時に禁制が役にたつとのこと。

本能寺の変直後の天下の形成は明智光秀に固まっていたわけではなく、明智光秀と戦う勢力にも禁制をもらっていた。すさまじい行動力を感じた。

## ③ 織田信孝禁制

『離宮八幡宮文章』(天正10年6月7日)

内容は省略。

大山崎における禁制はたくさんある。

大山崎は山城・摂津国境に跨った都市。西国街道の一本街村状の集落景観。大山崎神人(油販売)。南北朝・応仁文明の乱。戦国期は何度も戦場となる。武将から禁制を獲得。

67点、戦国期で最多。敵対する双方の軍から獲得するケースもみられる。

歴史の真偽は一次史料をどのように解釈しているかが大切である。歴史は動いている。

講演では光秀の最後では、一次史料で死亡したとの記述が多々あるので生存説を否定。

本能寺の変、当時の政治的局面的解説など、分かりやすい講演でした。

## 大山崎町歴史資料館

### 常設展示室見学

風食休憩後、歴史資料館館長の福島勝彦氏のご案内で常設展示室を見学しました。

「大山崎町の歴史と文化」をテーマに古代コーナー・中世コーナー・待庵と利休・近世コーナーなど7つのコーナー分かれています。

展示品も興味深いものが多かったと思います。

中世コーナーでは、後鳥羽天皇像と藤原定家画像がありました。後鳥羽院にいじめられていたことを定家が書き留めていたエピソードは面白く感じました。

待庵の前では、茶室の躍り口が大きく感じると参加者から質問がありました。

茶室の草創期であり試行錯誤していて、後の時代より大きかったのではないかとお答えがあったかと思えます。

### 大山崎町散策

ボランティアガイドさんの案内で大山崎町の散策をしました。

1階ロビーで集合写真を撮影後、4班に分かれて出発しました。

雨天の為、一部変更して散策しました。コースは、大山崎町歴史資料館、

観音寺参道、東の黒門跡、久我暇、史跡瓦窯跡公園、アサヒビール大山崎山荘、妙喜庵、離宮八幡宮です。



(写真)西国街道

資料館前の道路は西国街道で、位置は昔から変わっていないとのこと。

京都方面へ西国街道を進みます。しばらく進むと街道と分岐したところにたつ鳥居があります。観音寺(山崎聖天)の参道立つ鳥居で、扁額は「観音寺」でした。鳥居に寺院名の扁額とは珍しいと

思いましたが、神仏習合の名残のところです。



(写真) 観音寺参道

境界です。道路は直線ですが、かつては折れ曲がっていたそうで、魔物の侵入を防ぐ意味合いがあったそうです。



(写真) 久我畷

西国街道をさらに進むと東の黒門跡に着きます。ここが大山崎の京都側の



(写真) 東の黒門跡

東の黒門跡から少しして久我畷の分岐があります。西国街道からの折れ曲がった道路がありますが、魔物の侵入を阻もうとした形状が今も残っているようです。久我畷は大山崎町から京都市伏見区久我に至る街道。山崎の合戦のとき、豊臣勢が明智勢の後方を断って明智光秀を敗走させたところ。

西国街道を少し戻ってJRと阪急電鉄の線路をくぐって山手に入り、史跡瓦窯跡公園に向かいます。



(写真) 瓦窯跡

史跡瓦窯跡公園は、平安宮の所用の瓦を焼成した平安時代前期の瓦窯跡です。6基の窯が確認され、当時は平安京周辺各地に多数の瓦窯で大量の瓦を生産し、平安京・京の造営を支えた。大山崎瓦窯跡はこの様な平安京造営のための官宮の瓦窯の一つです。出土した軒瓦は、平安京朝堂院をは

じめ嵯峨院、河陽離宮に使用されました。

公園から見下ろす斜面に6基の窯跡が見え、正面に岩清水の丘、背面の山手には満開の桜が咲いています。

次に住宅地の急坂を登りアサヒビル大山崎山荘美術館に行きました。



(写真) 大山崎山荘

大山崎山荘美術館は実業家・故加賀正太郎氏が大正から昭和にかけて建設した「大山崎山荘」を創建当時の姿に修復し、安藤忠雄氏設計の新棟「地中の宝石箱」などを加え、1996年4

月に開館しました。我々は広大な庭園と天王山山麓の淀川の眺めを楽しみました。庭園の途中で宝積寺の三重の塔も見ることができました。

大山崎山荘から山を下りJR山崎駅前の国宝の茶室待庵のある妙喜庵の前を通り、離宮八幡宮に到着しました。

離宮八幡宮は製油発祥の神社。中世に油座の本所があった。諸説あるが、嵯峨天皇の離宮「河陽離宮」跡であったので社名を離宮八幡宮として成立した。

本日の例会は、ここで解散しました。

ボランティアガイドの皆さんありがとうございました。参加の皆さんありがとうございました。

大山崎町歴史資料館館長様講演並びに資料館案内ありがとうございました。

# 一口感想

K・M

満開の桜に雨はかわいそうでしたが、大山崎町歴史資料館での講演・見学とガイドさんによる大山崎町巡りは、雨にも負けず元気に歩くことができました。

館長さん・ガイドさんのお話で大山崎が古代より、こんなに歴史に彩られ、交通の要衝として発展し、さらには明智光秀・秀吉の山崎合戦により有名になったこと、とてもよく分かりました。都合により今回は説明だけで終わった「宝寺・宝積寺」の閻魔大王にぜひ会いに行きたいと思いました。

詳しい資料をいただきお世話くださいました皆様、本当に有難うございました。

Y・M

いつもさまざまな視点で史跡散策を企画してくださるありがとうございます。今回もまた新しい発見がありました。大山崎の人々の目線からの歴史ですね。村の立場からすると村を守るのが第一。そのためにはどちらが勝っても生き残らねばならないので両方から禁制をもちょう。また、多くの古文書から豊臣秀吉や明智光秀の性格や人柄もわかるのですね。何もかも古文書が残っているわけではないから残っていないこと以外はおもしろいように創作するのですね。それが大河ドラマなんですね。

次回もまた現在につながる考えさせられる史跡散策になりそうです。ウキウキしています。

H・M

例年より早い桜の開花で、春爛漫の雰囲気でしたが、あいにく終日雨模様で、気分はイマイチ。

午前中、大山崎の自治都市機能や明智光秀の禁制についての講義が大半で、前々から知りたかった秀吉と光秀との山崎の戦いの実戦の内容の詳しい解説がなかったのが、とても残念でした。それでも、午後からのガイドさんによるアサヒビール大山崎山荘美術館などの案内や、いろいろな質問にも分かりやすく説明してくださり、大変勉強になりました。

## 【お知らせ】

2023年度の計画ができましたので、お知らせします。

諸般の事情で変更することもありますが、ご了承願います。

(日曜日に開催します)

### 2023年

☆一七六回 5月28日

平城宮跡

☆一七七回 9月24日

宇治市散策

☆一七八回 11月26日

安土城址

### 2024年

☆一七九回 1月28日

今井町

☆一八〇回 3月24日

京都西山のふもと大原

野神社を巡る

☆一八一回 5月26日

高槻市城下町・戦国時代

## 【編集後記】

御礼

第175回例会はあいにくの天気となりました。

朝からスケジュールの調整でバタバタしておりましたが、日程の変更に柔軟に対応していただいた大山崎町歴史資料館館長並びにボランティアガイドさんのお陰で無事例会を終了することができました。ことを感謝するとともに御礼申し上げます。

例会を終えて

講演会・資料館の見学・散策と盛り沢山の例会になりましたが、それぞれの内容に引き込まれ時間のたつのが早かったと思います。参加者の皆さんからも質問が出て良かったです。

参加者の皆様のご協力により無事故でおわりました。感謝いたします。